

「FUT数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(令和5年度)自己点検・評価体制における意見等(様式5)

[教学IR委員会 令和6年2月14日承認]

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| プログラムの履修・修得状況 | 令和5年度の1年次学生のプログラム履修率は79.8%(392名/491名)であり、令和4年度に比べて約2ポイント減少しているだけでなく、令和3年度から連続して減少傾向にある。特に、本年度においては既に80%を下回っており、4月のガイダンス等で履修を促すなどの対策が必要と言える。また、単位の修得状況に関しても、令和4年度に比べて単位を修得できなかった学生の割合が増え、約3割に達しようとしている。今後、プログラムの内容や難易度を見直すなど、単位修得者数が増えるような取り組みが必要であると思われる。 |
| 学修成果 | 令和4年度と同様に、グループ間で成績評価にかなりの差があることから、3月あるいは4月上旬に担当者全体で綿密に打ち合わせを行い、プログラム全体で成績評価の平準化を意識するなどの対応が必要である。また、一部のグループにおいて、「無」の評価が令和4年度に比べて全体で約2倍、1年次でそれ以上になっている点については、教員側にも問題がないかを含め、原因をしっかりと調査して改善していく必要がある。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | 「勉強になった」「他学科の教員の話聞いた」「様々な分野の知識が得られた」など、好意的な感想がある一方で、批判的な意見も決して少なくないと言える。このため、これらの声に真摯に耳を傾けるだけでなく、学生の授業内容の理解度をより高めるために、学修者主体となるような授業の工夫が必要ではないかと思われる。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | 上述のように、「受講者の3割が単位修得困難」「授業に対する批判が多数」といった状況が改善されない限り、履修率のさらなる低下を招くことになり、この科目(プログラム)の存在意義そのものが危ぶまれることになりかねない。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | プログラムの履修者数・履修率をさらに高めるための手段の一つとして、受講生の意見を取り入れてプログラムをより良いものにしていくことが考えられる。多くの履修者の意見を汲み取るために、「授業改善のためのアンケート」の回答率をさらに上げるような工夫が必要といえる。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 授業全体を見たときに、テーマや内容にあまり一貫性がないように感じられる。数理・データサイエンス・AIを中核として、内容の整理・統一をすべき段階に来ているのではないか。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること | 令和4年度も同様な指摘を行っており、上にも記しているが、全体での「無」の評価が20%を超えているところがある。主因は受講生の欠席にあるとしても、その状況をもたらしている理由を引き続き調査して改善する必要があると言える(特に、1年次学生において「無」の評価が8.9%から21.2%に2.4倍増加していることから、1年次にしては授業の内容が専門的で難しいために興味をもてず、結果的に欠席に至ってしまうというようなことが一つの理由として考えられる)。 |